



衣川良介

鉄のふしぎ? 博物館

11

『沖を通る船の羅針盤が狂う』こんな伝承のある小高い山があります。山口県の日本海側、須佐町にある「須佐 高山(こうやま)」です。山頂の斑れい岩は強い磁気を帯びており、1936年(昭和11年)に国の天然記念物に指定されました。須佐の地名は「スサノオ命」にちなむもので、

『磁石山(じしゃくやま)』



龍門山の磁石岩

古代の製鉄技術の伝承地でもあり、たたら製鉄の遺跡が転々と散らばる地域です。和歌山県の紀州富士と言われる龍門山に磁石岩があります。山頂にどっかりと腰を下ろした周囲17呎、高さ4呎の蛇紋岩です。方位針を近づけると磁針が狂います。北端部はS極を吸引し南端部はN極を吸引します。強い磁石を近づけるとパチ

ンとひびつきます。54年(昭和34年)4月、和歌山県の天然記念物に指定されています。富士山の麓、青木ヶ原樹海は方位磁針が使えない、電子機器が狂うなどと言われています。試しに方位針と磁石を持って入りました。道はたの石に強い磁石を近づけるとよくひびつきます。鉄分を多く含んだ玄武岩のようです。石に近づけると方位針はぐるりと回りまわりました。携帯電話の方位表示ソフトは文字盤が一周しました。石の中の鉄分に影響されたのではなく、たぶんこの石が磁石だったのです。

こんな方位針の狂う山や地域はもともと他にもあるのではないかとインターネットや本を調べました。福井県坂井市三国町安島雄島(流紋岩)・島根県益田市飯浦港に浮かぶ松島(石英斑岩)かつて磁力が強かったとされ、船の羅針盤を狂わすほどといわれましたが、現在では磁性はほとんど失われています。他の地域でも方位針を狂わす岩や山があればお教えくだ



磁鉄鉱の結晶

さ。上記のように、方位針を狂わすような磁石山の石や岩には『磁鉄鉱』と書かれています。斑れい岩、蛇紋岩、玄武岩、流紋岩、石英斑岩などです。私の持っている岡山県の柵原鉱山で産出した天然磁石は、磁鉄鉱としての品位が低く、製鉄には不向きでコンクリートに混ぜられる重石(おもし)として売られています。純粋な磁鉄鉱は磁性を持っていないものかも知れません。『鉄のふしぎ博物館』に展示している磁鉄鉱の正八面体結晶も砂鉄を吸い付けません。そんな疑問を持っていて、『やさしい鉱物学』という本に出会いました。そこには「塊状の磁鉄鉱には、それ自身が強

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと交換しています。

日刊産業新聞 13・7・1

力な永久磁石になっている『天然磁石(ロードストーン)』とよばれるものがある。これは純粋な磁鉄鉱(Fe3O4)ではなく、磁赤鉄鉱(Fe2O3)がまじっているためである」と書かれています。

天然磁石はどうしてできたのでしょうか。現在では以下のように考えられています。落雷によって鉄分を多く含む石が磁石になり、そして磁力を失わない(覚えてい)石が天然磁石なのです。

参考資料

- 1 磁石の魅力 板倉聖宣 仮説社 1980年
- 2 『やさしい鉱物学』 益富寿之助保育社 1998年